

四半期報告書

(第7期第2四半期)

メディアスホールディングス株式会社

(E22995)

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	9
第4 【経理の状況】	10
1 【四半期連結財務諸表】	11
2 【その他】	21
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	22

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年2月10日

【四半期会計期間】 第7期第2四半期(自平成27年10月1日至平成27年12月31日)

【会社名】 メディアスホールディングス株式会社

【英訳名】 MEDIUS HOLDINGS Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 池谷保彦

【本店の所在の場所】 東京都中央区京橋一丁目1番1号

【電話番号】 03-3242-3154(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 経営推進本部長 芥川浩之

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋一丁目1番1号

【電話番号】 03-3242-3154(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 経営推進本部長 芥川浩之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第6期 第2四半期 連結累計期間	第7期 第2四半期 連結累計期間	第6期
会計期間	自 平成26年7月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日	自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日
売上高 (千円)	72,351,332	76,499,154	146,168,943
経常利益 (千円)	478,913	553,252	1,033,962
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	228,741	290,695	433,295
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	332,296	437,644	585,186
純資産額 (千円)	8,266,515	8,698,245	8,519,975
総資産額 (千円)	53,343,096	53,243,560	46,493,144
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	75.25	89.66	137.98
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	15.5	16.3	18.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	△1,720,181	△1,037,827	△962,560
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△474,806	△150,193	△920,592
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	6,186,882	3,218,996	1,335,851
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	8,742,330	6,320,371	4,203,134

回次	第6期 第2四半期 連結会計期間	第7期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	82.36	105.20

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(医療機器販売事業)

主要な関係会社の異動はありません。

(介護・福祉事業)

第1四半期連結会計期間より、重要性が増したため、持分法適用非連結子会社であった(株)ケアフォースを連結子会社にしております。

この結果、平成27年12月31日現在では、当社グループは、当社、連結子会社6社、非連結子会社3社及び持分法非適用関連会社3社の計13社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、この四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

また、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費の持ち直しの遅れなど景気回復への懸念があるものの、円安や原油安を背景とした企業収益の改善や雇用情勢の好転が見られるなど、緩やかな回復基調で推移しました。米国の金融政策が正常化する一方で、中国を始めとした新興国経済の減速及び原油安リスクの顕在化など世界経済の下振れ懸念から、先行きに対する不透明感が強まっております。

医療業界におきましては、医療機関が医療機能の現状と今後の方向性を都道府県に報告する仕組み「病床機能報告制度」が導入され、都道府県はその情報を基に、地域で最適な医療機能の分化と連携を推進させるための地域医療構想(ビジョン)を策定することにより、地域医療機関の自主的な取り組みや相互の連携が一層図られることになりました。平成26年度の診療報酬改定では急性期病院の機能分化が図られ、その結果、設備投資意欲が減退する医療機関も見受けられました。平成28年度の診療報酬改定の内容も医療機関にとって引き続き厳しい内容が予想される中で各々の医療機関では役割や機能を見直す必要に迫られております。

当社グループが属する医療機器販売業界におきましては、経営環境が変化すると予測される医療機関に対して、医療機関の経営改善に繋がる複合的なサービスを継続して提供する必要があると考えております。また、今後は他業界からの参入に加え、業界内においても再編が進むことが予想されます。これら当社グループを取り巻く経営環境に対して、提案型の営業強化や、より一層の経営の効率化並びにコスト削減に対する施策が不可欠であると認識しております。

このような経営環境の下、当社グループは「地域医療への貢献」を経営理念に掲げ、特にSPD(注)事業の拡大に注力しており、医療材料(消耗品)の販売を通じた手術室業務支援ソフトウェア「サージレール」や医療材料データベース・医療材料分析サービス「メッカル」の提案等、医療機関の経営改善に繋がる複合的なサービスの推進に努めました。前期においては、大型の設備案件が大幅に減少してはりましたが、今期においては医療機関の増改築に伴う備品案件獲得や一般消耗品の売上が堅調に推移した結果、売上高は前年同四半期比で上回りました。売上総利益率につきましては、一般消耗品のうち、SPD事業において利益率を押し下げる影響があり若干低下いたしました。備品販売は堅調に利益を確保できた結果、前年同四半期とほぼ同水準で推移いたしました。販売管理費については、新規物流センター開設に伴う外部委託先に対する業務委託費増加の影響がありました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は76,499百万円(前年同四半期比5.7%増)、営業利益は325百万円(同21.6%増)、経常利益は553百万円(同15.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は290百万円(同27.1%増)となりました。

(注) SPD

Supply Processing & Distributionの略語で、病院が医療材料の物流管理を外注化し、病院所有の在庫の削減、病院側の物品管理作業の軽減を図るシステムのことであります。SPDの運用は、病院との契約により、医療機器販売会社又は専業の会社が行います。当社グループにおきましては、連結子会社である協和医科器械(株)及び(株)栗原医療器械店並びに非連結子会社であるメディアソリューション(株)並びに持分法非適用の関連会社である(株)エヌエイチエス静岡が行っております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①医療機器販売事業

医療機器販売事業では、消耗品については、新規獲得したSPD契約による消耗品売上のベースアップもあり、堅調に進みました。備品については、病院等の新築及び増改築に伴う備品の獲得があり、前年同四半期に比べて売上高は増加しました。この結果、売上高は74,721百万円(前年同四半期比5.8%増)となりました。利益面では、消耗品についてはSPD契約を足掛かりとした販売増加による利益の獲得、販売促進リベート獲得の効果があつたものの、医療機関からの値下げ要求もあり、前年同四半期と比較して利益率は若干低下しました。備品については、前年同四半期比で売上高は増加し、超音波診断装置や内視鏡を中心とした診断検査装置等の備品販売において利益が確保できたことにより、利益率は前年同四半期比で上昇しました。この結果、売上総利益は7,100百万円(同4.4%増)となりました。

またセグメント利益(営業利益)は、2,129百万円(同3.3%増)となりました。

②介護・福祉事業

介護・福祉事業は、介護機器のレンタル事業が伸長し、また株式会社ケアフォースを連結の範囲に含めたことによる影響もあり、売上高は1,777百万円(前年同四半期比2.3%増)となりました。利益率については前年同四半期比で上昇したことにより売上総利益は762百万円(同6.9%増)となりました。

またセグメント利益(営業利益)は、188百万円(同8.4%増)となりました。

(注)当社グループのセグメントは、次のとおりであります。

医療機器販売事業……(医療機器販売事業)

国内の医療機器メーカー・代理店・商社等より仕入れた医療機器(備品・消耗品)を、国内の病院等医療施設に販売しており、当社グループの基幹となる事業であります。

(医療機器の修理及びメンテナンス事業)

当社グループが病院等医療施設に販売した医療機器の修理及びアフターサービス、病院等医療施設との保守契約に基づく医療機器全般のメンテナンスを行っております。

介護・福祉事業…… 国内外の介護福祉機器メーカー・代理店・商社等より仕入れた介護福祉機器(備品・消耗品)を、国内の病院等医療施設及び介護施設並びに医療機器販売業者、一般個人に販売しております。また、介護福祉機器の一般個人へのレンタルを行っております。

(2) 財政状態の分析

①資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末から6,750百万円増加し、53,243百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末から6,576百万円増加し、45,604百万円となりました。これは主に現金及び預金が2,105百万円、受取手形及び売掛金が3,540百万円、商品及び製品が866百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末から174百万円増加し、7,639百万円となりました。これは主に投資その他の資産が246百万円増加したことによるものであります。

②負債

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末から6,572百万円増加し、44,545百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末から6,865百万円増加し、41,697百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が2,753百万円、短期借入金が4,165百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末から293百万円減少し、2,847百万円となりました。これは主に長期借入金が406百万円減少したことによるものであります。

③純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末から178百万円増加し、8,698百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が144百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して2,030百万円増加し、新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額86百万円と合せて6,320百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,037百万円の支出(前年同期は1,720百万円の支出)となりました。

主な要因としましては、税金等調整前四半期純利益549百万円、仕入債務の増加額2,752百万円等の収入要因に対し、売上債権の増加額3,494百万円、たな卸資産の増加額801百万円等の支出要因が上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、150百万円の支出(前年同期は474百万円の支出)となりました。

主な要因としましては、定期預金の払戻による収入50百万円等の収入要因に対し、定期預金の預入による支出39百万円、長期前払費用の取得による支出109百万円等の支出要因が上回ったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、3,218百万円の収入(前年同期は6,186百万円の収入)となりました。

主な要因としましては、短期借入金の純増額3,899百万円等の収入要因に対し、長期借入金の返済による支出691百万円等の支出要因が下回ったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	9,900,000
計	9,900,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,242,256	3,242,256	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	3,242,256	3,242,256	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年12月31日	—	3,242,256	—	1,285,270	—	493,982

(6) 【大株主の状況】

平成27年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(株)エム・ケー	群馬県太田市新井町533番地5 MKビル4F	405	12.49
(株)イケヤ	静岡県静岡市清水区草薙杉道三丁目2番12号	320	9.86
メディアスホールディングス 従業員持株会	東京都中央区京橋一丁目1番1号	270	8.34
栗原医療従業員持株会	群馬県太田市清原町4番地の6	108	3.33
池谷 保彦	静岡県静岡市清水区	90	2.78
永田 幸夫	静岡県静岡市清水区	90	2.78
梅澤 悟	群馬県太田市	88	2.73
野田 了子	静岡県静岡市清水区	66	2.04
アルフレッサホールディングス (株)	東京都千代田区大手町一丁目1番3号	63	1.96
福井医療(株)	福井県福井市問屋町四丁目901	60	1.85
計	—	1,562	48.20

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式3,240,800	32,408	—
単元未満株式	普通株式 1,456	—	—
発行済株式総数	3,242,256	—	—
総株主の議決権	—	32,408	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が300株(議決権3個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄には、自己株式が78株含まれております。

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年7月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,300,295	6,406,264
受取手形及び売掛金	27,089,869	※2 30,630,627
商品及び製品	5,990,058	6,856,934
仕掛品	41,544	—
原材料及び貯蔵品	11,580	11,384
その他	1,602,939	1,707,894
貸倒引当金	△8,450	△8,994
流動資産合計	39,027,837	45,604,111
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	917,972	897,229
土地	1,715,309	1,709,559
その他（純額）	369,341	412,827
有形固定資産合計	3,002,624	3,019,616
無形固定資産		
のれん	241,058	221,188
その他	702,716	633,507
無形固定資産合計	943,775	854,695
投資その他の資産		
その他	3,588,530	3,830,910
貸倒引当金	△69,623	△65,774
投資その他の資産合計	3,518,906	3,765,136
固定資産合計	7,465,306	7,639,449
資産合計	46,493,144	53,243,560

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,762,624	※2 31,516,607
短期借入金	4,417,753	8,582,904
未払法人税等	177,848	287,730
その他	1,473,772	1,310,659
流動負債合計	34,831,999	41,697,902
固定負債		
長期借入金	1,764,415	1,357,708
退職給付に係る負債	712,443	743,528
資産除去債務	16,033	24,835
その他	648,277	721,339
固定負債合計	3,141,169	2,847,412
負債合計	37,973,169	44,545,314
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,285,270	1,285,270
資本剰余金	1,395,240	1,395,240
利益剰余金	5,372,134	5,403,456
自己株式	△134	△134
株主資本合計	8,052,510	8,083,832
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	496,808	641,582
退職給付に係る調整累計額	△29,343	△27,169
その他の包括利益累計額合計	467,464	614,413
純資産合計	8,519,975	8,698,245
負債純資産合計	46,493,144	53,243,560

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
売上高	72,351,332	76,499,154
売上原価	64,834,112	68,638,264
売上総利益	7,517,220	7,860,890
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	12,505	1,201
給料及び手当	2,957,990	3,057,851
従業員賞与	766,215	791,992
退職給付費用	213,003	219,824
法定福利費	505,267	542,593
減価償却費	221,635	223,434
賃借料	501,571	633,749
業務委託費	530,232	599,939
その他	1,541,016	1,464,576
販売費及び一般管理費合計	7,249,438	7,535,164
営業利益	267,781	325,726
営業外収益		
受取利息	1,447	1,586
受取配当金	8,401	9,345
仕入割引	183,191	198,019
その他	70,574	53,117
営業外収益合計	263,614	262,068
営業外費用		
支払利息	34,887	30,561
株式交付費	10,036	—
その他	7,557	3,980
営業外費用合計	52,481	34,541
経常利益	478,913	553,252
特別利益		
固定資産売却益	736	2,402
特別利益合計	736	2,402
特別損失		
固定資産売却損	1,452	30
固定資産除却損	17,391	176
減損損失	—	5,750
特別損失合計	18,843	5,957
税金等調整前四半期純利益	460,806	549,697
法人税、住民税及び事業税	216,087	287,263
法人税等調整額	15,977	△28,262
法人税等合計	232,065	259,001
四半期純利益	228,741	290,695
親会社株主に帰属する四半期純利益	228,741	290,695

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	228,741	290,695
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	101,877	144,774
退職給付に係る調整額	1,678	2,174
その他の包括利益合計	103,555	146,948
四半期包括利益	332,296	437,644
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	332,296	437,644

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	460,806	549,697
減価償却費	359,422	362,432
のれん償却額	168,787	40,333
減損損失	—	5,750
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	24,436	34,431
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	12,499	△3,305
受取利息及び受取配当金	△9,848	△10,931
支払利息	34,887	30,561
株式交付費	10,036	—
固定資産売却損益 (△は益)	715	△2,371
固定資産除却損	17,391	176
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,080,457	△3,494,197
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△679,431	△801,882
リース投資資産の増減額 (△は増加)	24,906	25,245
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△263,946	△100,025
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,844,875	2,752,486
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△5,569	△198,204
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△77,328	△53,778
その他	1,956	△3,085
小計	△1,155,860	△866,666
利息及び配当金の受取額	8,986	9,908
利息の支払額	△34,344	△30,125
法人税等の支払額	△626,287	△242,162
法人税等の還付額	87,324	91,218
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,720,181	△1,037,827
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△33,593	△39,213
定期預金の払戻による収入	45,783	50,481
有形固定資産の取得による支出	△71,123	△26,259
有形固定資産の売却による収入	1,596	1,413
有形固定資産の除却による支出	△6,983	—
無形固定資産の取得による支出	△100,637	△18,520
投資有価証券の取得による支出	△177,791	△1,297
関係会社株式の取得による支出	△100,000	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	97,903	—
貸付金の回収による収入	8,477	3,246
長期前払費用の取得による支出	△139,583	△109,049
敷金及び保証金の差入による支出	△3,555	△3,271
敷金及び保証金の回収による収入	16,419	1,129
保険積立金の積立による支出	△13,158	△13,155
保険積立金の解約による収入	—	3,327
その他	1,440	973
投資活動によるキャッシュ・フロー	△474,806	△150,193

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	5,222,528	3,899,941
長期借入れによる収入	1,660,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△1,206,845	△691,498
株式の発行による収入	522,780	—
リース債務の返済による支出	△28,039	△34,643
配当金の支払額	△231,353	△254,802
自己株式の処分による収入	247,884	—
その他	△71	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,186,882	3,218,996
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,991,894	2,030,975
現金及び現金同等物の期首残高	4,750,436	4,203,134
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	86,262
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 8,742,330	※1 6,320,371

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)
<p>(連結の範囲の重要な変更)</p> <p>第1四半期連結会計期間より、従来持分法適用会社であった㈱ケアフォースは重要性が増したことから、連結の範囲に含めております。</p>
<p>(持分法適用の範囲の重要な変更)</p> <p>第1四半期連結会計期間より、㈱ケアフォースは重要性が増したことから、連結の範囲に含めたため、持分法適用の範囲から除外しております。</p>

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)
<p>(会計方針の変更)</p> <p>「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。) 及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、 第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。</p> <p>企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。</p> <p>これによる損益に与える影響はありません。</p>

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務

下記の非連結子会社の仕入債務及び金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
㈱ネットワーク	27,763千円	24,796千円
㈱ケアフォース	250,000千円	—

※2. 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形	—	149,964千円
支払手形	—	397,601千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成26年 7 月 1 日 至 平成26年12月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 7 月 1 日 至 平成27年12月31日)
現金及び預金	8,848,198千円	6,406,264千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	△105,868千円	△85,892千円
現金及び現金同等物	8,742,330千円	6,320,371千円

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間(自 平成26年 7 月 1 日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年9月26日 定時株主総会	普通株式	232,312	80	平成26年6月30日	平成26年9月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成26年10月3日開催の取締役会決議に基づき、当第 2 四半期連結会計期間において公募及び第三者割当による新株式発行、自己株式の処分並びにオーバーアロットメントによる当社株式の売出しに関する第三者割当による新株式発行を行い、資本金が266,408千円、資本剰余金が385,061千円増加し、自己株式が129,230千円減少しました。この結果、当第 2 四半期連結会計期間末において資本金が1,285,270千円、資本剰余金が1,395,240千円となりました。

当第 2 四半期連結累計期間(自 平成27年 7 月 1 日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年9月25日 定時株主総会	普通株式	259,374	80	平成27年6月30日	平成27年9月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成26年7月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	医療機器 販売事業	介護・福祉事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	70,614,311	1,737,020	72,351,332	—	72,351,332
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	70,614,311	1,737,020	72,351,332	—	72,351,332
セグメント利益	2,061,569	173,673	2,235,242	△1,967,461	267,781

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,967,461千円には、のれん償却額△168,787千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,798,673千円が含まれております。全社費用は、主に親会社の営業費用及び報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	医療機器 販売事業	介護・福祉事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	74,721,653	1,777,501	76,499,154	—	76,499,154
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,253	6,674	8,927	△8,927	—
計	74,723,906	1,784,176	76,508,082	△8,927	76,499,154
セグメント利益	2,129,209	188,273	2,317,482	△1,991,756	325,726

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,991,756千円には、セグメント間取引消去9,068千円、のれん償却額△40,333千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,960,491千円が含まれております。全社費用は、主に親会社の営業費用及び報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、売却の意思決定を行った賃貸用資産(土地)の帳簿価額を回収可能価額まで減額したことにより、5,750千円の減損損失を計上しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	75円25銭	89円66銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	228,741	290,695
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	228,741	290,695
普通株式の期中平均株式数(株)	3,039,659	3,242,178

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月9日

メディアスホールディングス株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 谷津良明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大須賀壮人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているメディアスホールディングス株式会社の平成27年7月1日から平成28年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年7月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、メディアスホールディングス株式会社及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月10日
【会社名】	メディアスホールディングス株式会社
【英訳名】	MEDIUS HOLDINGS Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 池谷保彦
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋一丁目1番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長池谷保彦は、当社の第7期第2四半期(自平成27年10月1日至平成27年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。